

参校：淀川水系河川整備計画基礎原案「治水・防災」関連

□「評価できる」事項

<現状の課題>

- ・「現在の堤防は十分な信頼性を有していない」ことを明記した。

<河川整備の基本的な考え方・河川整備の方針>

- ・提言にも示されているが、河川管理者が「破堤による被害の回避・軽減を目標」としたことは、これまでの「一定規模以下の洪水に対する水害の発生を防止する」というこれまでの方針を大転換するものであり、きわめて高く評価される。
- ・「土地利用の規制・誘導」を明記したことはこれまでの「願望」の域を脱するものであり、実現に向けて、他と連携しつつ、総力を結集することを期待する。

□「評価できない」あるいは「再検討すべき」事項

<現状の課題>

- ・治水事業が河川環境に影響をもたらして面があることが明記されていない。河川環境あるいは「基本的な考え方」の項で記述されているが、「治水事業であっても河川環境を重視すべき」とする提言の主旨からすれば「治水・防災」の項でも明記したほうが良いと考える。

<河川整備の基本的な考え方・河川整備の方針>

- ・「治水・防災に関連する施策をハード、ソフトの両面にわたって推進する」とあるが、提言の流域対応に示したハード的な施策がないがしろにされる恐れがある。
- ・「既往最大規模の洪水に対する浸水被害の解消を目標として狭窄部上流における対策を検討する」としているが、猪名川のように超大規模の降雨を経験した地域にも同じ扱いが可能だろうか。地域によって目標を帰る必要があるのではないか。
- ・「山地から海岸までの土砂収支のバランスを図る」ための施策として「山腹工による森林の復元や砂防堰堤の建設」が取り上げられているが、ダムや堰での土砂の連続性の回復にも触れる必要がある。

□さらに検討すべき主な論点

<河川整備の基本的な考え方・河川整備の方針>

- ・狭窄部上下流の治水安全度の向上
- ・山地から海岸までの土砂収支のバランスを図る方策
- ・堤防の補強方法
- ・治水におけるダムの役割